

スプレディングペチュニア ウェーブ™・シリーズ

【前編: プラグ/育苗管理～ライナー生産を含む】

プラグ生産ステージ

【スプレディングの性質上の違いは苗を移植した後から顕著になります。ウェーブに関しては、プラグ生産の段階では通常のペチュニア苗と同様の管理方法が可能です】

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は中庸(0.75mmhos/cm(1:2))を維持する

播種

播種後は、ペレットを完全に融解させるため十分に水を含ませ、チャンバーやベンチに移動する前にペレットが破碎されていることを確認する。ウェーブは、物理的な障害となるため、バーミキュライトで覆土をしない

ステージ 1 - 発芽には約4日を要する

地 温: 22 から 24℃

光条件: 光は発芽に有効である(詳細は下記を参照)

水 分: ステージ 1 では最良の発芽条件を整えるため、水分レベルを湿潤(level 5)で維持する

湿 度: 幼根が発生するまでは相対湿度 100%を維持

※ ウェーブの発芽に関しては、十分に水分を含んだ培地と一貫した環境が重要な点となる。電灯付き(100 ルクス/10f.c.)のチャンバーで、22 から 24℃の温度維持が、発芽に最適な条件である

電灯付きのチャンバーが利用できない条件では、より良い発芽の結果を得るために以下のいずれかの方法をとることが望ましい

- 無灯チャンバーの中に、22 から 24℃の条件で、24 から 48 時間置く。チャンバーから出した後は、水分レベルを湿潤(level 5)にしたまま残りのステージ 1 の期間を同じ温度で維持する
- ベンチで発芽をさせる場合は、地温を 22 から 24℃で、またビニールなどでトレイを包みながら水分レベルを湿潤(level 5)で幼根が発生するまで維持する(このときバーミキュライトで覆土することは推奨しない)。トレイを包めない場合は、人的に培地の管理を注意深く行い、ステージ 1 が終わるまで培地が十分に湿潤状態にあるよう管理する

ステージ 2

地 温: 20 から 24℃

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水 分: 根が培地を十分に浸透するよう、少しずつ水分を減らしてやや湿潤の状態(level4)を維持する

肥 料: リン酸が低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm 以下(N)、EC は 0.7 mS/cm 以下)で開始する

ステージ 3

地 温: 18 から 21℃

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水 分: ステージ 2 よりもドライな状態に移し、次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)の状態におく。湿潤と乾燥、つまり level 4 と 2 を循環的に繰り返すようにする

肥 料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mS/cm(1:2))を維持

矮化処理剤

プラグ苗の生長制御については、まずは外部条件や肥料管理、またかん水などから方法を講じて、化学的な矮化処理剤を用いるのは、必要性を見ながらその次の手段とすることが望ましい。アンモニア態窒素の利用を最小限にすることで、苗の徒長を裂けることが可能である。また DIF(昼間と夜間の温度差)の利用によって丈の伸張を抑制することも可能である。矮化剤を使用する場合は、事前に試験を行うようにする

アメリカ仕様: B-ナイン 5,000ppm を 1,2 回ほど散布する。最初はプラグ苗の段階で、本葉 2,3 枚をめどに行なう。さらにそれから 7 日おいて 2 回目を散布する。この処理で、苗が生長した後の地際株が充実する効果もある

北ヨーロッパ仕様: B-ナイン 1,250ppm を必要に応じて 1-3 回ほど散布する試験を行った結果、効果が見られた

ステージ4

地 温: 16 から 18℃

光条件: 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

水 分: 上記ステージ 3 と同じ

肥 料: 上記ステージ 3 と同じ

ライナー生産(大きなプラグトレイによる生産)

日長時間との関係

電照設備のない生産施設での生産、あるいはウェーブを他の一般的なペチュニアと同様の矮化剤管理をするには、大きなサイズのトレイを用いたライナー生産が選択肢のひとつである。以下が、花芽のついている、また矮化剤処理がすでに施されている、ウェーブのライナー生産の手順である

使用するトレイサイズ

72 穴、またはそれよりも容量の大きなトレイを用いる。パープル/クラシックとピンクでは 72 穴を推奨

播種

直播きのほか、521 や 406 穴からの苗の移植も可能。直播きの場合は、発芽の手順を踏む必要がある

日長時間との関係

長日条件の処理(14 時間への明期延長)、あるいは暗期中断(4 時間)は、本葉が 5 枚の時点で、あるいはもう少し早く開始する。長日条件は葉枚数が少なくとも 12 枚くらいになるまで(地温にもよるが 6、7 週。またプラグから移植した場合は 9 週まで)続ける。

植物は環境の変化に敏感に反応するので注意が必要。かりに、これまで 14 時間の日長条件にあった株を 12 時間未満の条件へ移動すると、花芽の生育が停止してしまう可能性がある

矮化処理剤

5 月に花を咲かせる場合、6 週間のライナー生産では以下のようなスケジュールを用いる

第 3 週	B ナイン 5,000ppm
第 4 週	B ナイン 5,000ppm(反復)
第 5 週	ボンザイ 15 から 60ppm を散布
第 6 週	必要であれば、ボンザイ散布を反復

ライナー生産が低温期、低日照の時期にさしかかる場合は、生産期間が約 1 週長くなる。したがって、上記の矮化剤処理のスケジュールは 1 週ずつ(プラグからの移植では 2 週)延期される

※ ウェーブのプラグ苗を長くトレイに置き過ぎないようにする。苗が根詰まりを起こすと、生育が鈍化するかあるいは停止する。また、根詰まりしたプラグ苗は病気にかかりやすくなる。軽度の根詰まりであれば、移植後 1、2 週で回復する。生産期間の短縮のためにも、根の環境を最適化することが大切である

鉢上げから出荷までの管理

ウェーブTMペチュニアのプラグ鉢上げ～出荷、GrowerFacts(後編)をご参照ください